

2023年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園幼稚園】

1 めざす幼稚園像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
 - ・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。
 - ・bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性を認識し、保育活動の中に意識付ける。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
 - ・VUCAの時代を生き抜くために子どもたちに必要な能力を理解し、その能力育成のために必要な教育環境の整備に努める。
 - ・安心安全な生活を目指すうえで、様々な危機管理意識を醸成する。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
 - ・園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を実践する。
 - ・育てたい子ども像を共有し、それを目指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
 - ・園児が、他校種の児童・生徒と交流できる機会を設ける。
 - ・他校種、スポーツセンターなどとの連携の形を模索し、教職員間の意見交換の場を設定する。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった10項目></p> <ul style="list-style-type: none">○教育方針への共感○教育目標への共感○安全教育○個人情報の適切な取扱い○全体的な本園への満足○教職員の気持ち良い挨拶○教職員の協力体制○緊急時の適切な情報伝達○教育方針に沿った教育の実践○基本的な生活習慣が身につく生活指導 <p>(満足度96%以上)</p>	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2023年度学校評価に関する検討は2024年4月13日(土)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none">・保護者アンケートの結果をしてみると、幼稚園・小学校・高校の連携に関する満足度が低い。幼小高の連携を深めていくために、例えば小学生が幼稚園と交流するなど、多校種が同じ敷地にある強みを活かした連携ができれば、学園全体が盛り上がるのではないだろうか。

7. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	1. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
<p><評価が相対的に低かった5項目> ○子どもの自然や物を大切にす行動 ○子どもの応用力の養成 ○子どもの判断力 ○子どもの挑戦心 ○小学校との活動の連携 (満足度70~88%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4年前から中高教員研修に小学校も参加してもらい、昨年からは幼稚園も加わった。今年は、総合スポーツ教育センターも合わせ、校種をまたいだ研修を行う予定である。楽しい研修を計画し、教員も型にはまらず一人の人間として、気さくな関係の中で積極的に教員同士の関係づくりができるように取り組みたい。 ・他校種とは感覚的な違いがあり、学校の通常の授業とは異なるところがあるが、教員側の意識改革も必要であり、総合学園としてのメリット、特に他校種の子どもたちと身近に接することができるメリットを活かしていければと思う。仮に「学びの森」で企業とのタイアップ活動があるなら、例えば幼稚園児向けの商品開発に向けた市場調査が幼稚園で実施できるのではないかな。
<p><アンケート総括> 本年度は例年以上に評価値が高く、満足度が8割を下回るのは1項目のみとなった。一方で、「不満」との回答率が他の設問との比較で若干高い項目として、登降園の方法や子どもに関する気軽な相談に関する設問が挙げられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本学園の後援会は校種に関わりなく活動しており、校種のつなぎ役も可能である。このしくみを活用するために、学園から声をかけてほしい。 ・学校評価アンケートについて、保護者各位には回答のお手間をかけているところでもあるので、今まで以上に教員はこのアンケート結果の内容をしっかりと確認し、自身に反映させ、行動を変えていくことが求められる。 ・開かれた学校になっていただきたいと思っている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度90%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。 ・bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性を認識し、保育活動の中に意識付ける。	カトリック精神に基づいた保育活動の実践と、さらなる深化充実に向け園内外の研修を学期に1回以上持つ。	サレジアンシスターズとしての自覚と意識改革を前提とした日々の行動変容の出現	幼稚園は、教育方針に沿った教育を行っている。(満足度97.3%) 子どもは、毎日幼稚園に行くのを楽しみにしている。(満足度92.7%)	(○)1月のカトリック園の保育大会、ミッションパートナーの集い、姉妹校への見学など、研修したことを全体共有することで、意識は高まっている。
		「予防教育法」の理解を深めるための研修内容を吟味し、日々の保育活動に活かすことができているかどうかの振り返りを行う。	学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子供の育成への寄与	幼稚園は、保護者に対してキリスト教主義に基づく教育方針の説明をわかりやすく行っている。(満足度93.6%)	(○)毎日の保育の中で、アシツテンツアを意識するとともに、ドン・ボスコの言葉を振り替えることで、実践に活かされてきている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。 ・bontà(親切)、libertà(自由)、allegria(快活)の重要性を認識し、保育活動の中に意識付ける。	「予防教育法」の理解を深めるための研修内容を吟味し、日々の保育活動に活かすことができているかどうかの振り返りを行う。	学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子供の育成への寄与	子どもは、自分の気持ちや考えを進んで述べ、自信を持って行動できるようになった。 (満足度90.9%)	(○)毎日の保育の中で、アシツテツアを意識するとともに、ドン・ボスコの言葉を振り替えることで、実践に活かされてきている。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	・VUCAの時代を生き抜くために子どもたちに必要な能力を理解し、その能力育成のために必要な教育環境の整備に努める。 ・安心安全な生活を目指すうえで、様々な危機管理意識を醸成する。	主体性や創造性、協調性などを育むための教育内容や教育環境を他園などを参考にしながら、取り入れる。	さらに子ども一人ひとりの思いや願いを大切にしたい教育内容への変容	子どもは、自己の課題に向けて全力で挑み、解決しようとするようになった。 (満足度86.4%) 子どもは、感謝の気持ちを大切にしている。 (満足度92.3%)	(△)他園の見学などを通して、保育内容の見直しを少しずつ進めてはいるが、場所や時間などの余裕のなさから、改善にまでは至っていない。
		様々な防災・防犯訓練を実施し、教職員・園児の危機管理意識の向上を図る。	教職員・園児の危機管理に対する意識改革と日常の行動変容	幼稚園は、子ども達に安全教育を行っている。 (満足度98.6%) 幼稚園の施設・設備は、安全管理が行き届いている。 (満足度95.5%)	(○)全校実施の避難訓練や防犯訓練などの後には、園としての振り返りを持ち、課題点を明らかにしてきた。
		業務のICT化を進め、指導計画のデータ化を進める。	時間外勤務の削減、働き方改革の推進	-	(△)設備の関係で、個人PCの配置は進んでいないが、配布文書などのメール配信については進んできている。今後、文書のデータ化、保管方法などについて職務の軽減につながるように改善していく必要がある。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	・園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を実践する。 ・育てたい子ども像を共有し、それを目指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。	カトリック園の研修や外部の研修に積極的に参加し研修を深める。全教職員のスキル獲得を目指して、伝達講習会をもつ。	園児一人ひとりが神のまなざしのもとで誠実の行動し善を選び取る人格形成の基礎作り	保護者として、子どもをこの幼稚園に通わせて満足している。 (満足度97.7%) 教職員の心配りが行き届いている。 (満足度95.5%)	(○)宗教行事や毎日のお祈りなどについて計画的に進められている。今後は日々の保育の中での宗教教育についての意識を高めていく必要がある。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	<ul style="list-style-type: none"> 園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を実践する。 育てたい子ども像を共有し、それを指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。 	主体性や自己肯定感を育む保育内容に照準を合わせた園内研修テーマを策定し公開保育を伴った園内研修をもつ。	園児の主体性や協調性の醸成のための保育奈用の改革	子どもは、いろいろな活動に興味や関心を持ち、意欲的に取り組むようになった。 (満足度95.5%)	(△)園内研修のテーマに沿って、各学年で取組を進めているが、主体性やコミュニケーション能力の育成を意識した実践に至っていないところもある。
				子どもは、自己の課題に向けて全力で挑み、解決しようと努力できるようになった。 (満足度86.4%)	
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	<ul style="list-style-type: none"> 園児が、他校種の児童・生徒と交流できる機会を設ける。 他校種、スポーツセンターなどとの連携の形を模索し、教職員間の意見交換の場を設定する。 	各校種の行事や日常の活動(保育内容)の中で積極的に交流の場を企画する。 教職員間の意思疎通を図るべく校種の垣根を超えた場づくりに努める。	他校種との交流による親近感やあこがれの心情の醸成内部進学への拡充 各校種の課題を共有し協働的な解決方法の模索	幼稚園は、小学校と連携した活動を行っている。 (満足度70.7%)	(△)他校種との交流はなかなか進んでいない。教職員だけでなく、子ども同士の教育課程に位置付けた交流を進めていきたい。 (○)学園全体の課題を共有し、その中で幼稚園としての課題を、解決する方策について考えた。
				教職員は、協力し合って保育を行っている。 (満足度97.3%)	
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシスタ」を深める。	城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。	学園、幼稚園としての社会的立場を自覚し、社会に貢献する一員として教育活動に務める。体験保育などを入園希望に限定せず広く募集する。	城星ファミリーの一員としての自覚と責任感の獲得	-	(△)次年度に向けての計画については、保育室の場所の確保の関係で進んでいない。